

ひまわり



平成31年3月1日(金)

梅の花に思う

東風吹かば^ち匂い^{にお}おこせよ梅の花^{あるじ}主なしとて春を忘るな



学問の神様として知られる菅原道真^{すがわらのみちざね}が、無実の罪で九州の太宰府に流された時、京都の自宅で大切にしていた梅の木を思って詠(よ)んだ歌です。

現代語訳は、「春になって東風が吹いてきたら、その風に花の匂いを乗せて送ってくれ。主である私がいなくなったからといって、花の咲く春を忘れるな」となります。

自宅近くの公園では、梅の花が咲き誇っています。甘く、清涼感のある匂いです。菅原道真も同じ匂いをかいでいたかもしれません。

以前、知人から次のような話を教えていただきました。「梅の花は、厳しい冬の寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。人間も苦難や試練を乗り越えることで、一段と成長できる」

この言葉は、西郷隆盛が甥(おい)に向けて詠んだ漢詩の一節「耐雪梅香麗(雪に耐えて梅香麗[うるわ]し)」が出典です。元広島東洋カープの黒田博樹投手は、この言葉を座右の銘にしていたそうです。

人生は楽しいことばかりではありません。苦しいことや大きな壁が目の前に立ちふさがることもあります。そこから逃げてしまうことは簡単ですが、それでは、いつまで経っても人として成長できません。

3年生であれば、高校入試という壁を乗り越えなければ高校生にはなれません。人生には、避けては通れないこともたくさんあるのです。

夢や希望を叶えるためには、現実から逃げず、努力を重ね、目の前にある壁を一つ一つ乗り越えていくことが大切なのです。壁の向こうには、必ず希望に満ちた未来が待っているはずです。

学校ホームページで、日々の教育活動の様子を公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。
【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>